

昨今、急速な人口の高齢化に直面している中国において、高齢者とその家族との住まい方に人々の関心が注がれている。中国では伝統的に、子世代の既婚男子が親と同居し、子世代は親世代に対し、扶養の義務と責任を担ってきた。これまで、数多くの先行研究によって、子どもとの同居が中高齢者の健康や生活満足度に大きく影響を与えることが明らかにされている。そこで、本稿では、中国における中高齢者およびその中高齢者の長子を対象に、長子との居住距離が中高齢者の生活満足度にどのような影響を与えるかについて検証を行った。

本稿で用いるデータは、2015年において北京大学によって実施された「中国健康と養老追跡調査（China Health and Retirement Longitudinal Survey：以下、CHARLS-2015と略する）」の個票データである。被説明変数は中高齢者の生活の満足度である。説明変数は、親子の居住距離として、同居ダミー、同じ村・近隣ダミー、同じ区・市・県ダミー、他の県ダミーを用いた。その他の個人属性については、中高齢者本人の年齢、性別、教育水準、結婚、居住地が都市ダミー、個人の収入、主観的健康感、調査時点から過去1年以内に長子からの金銭的援助額を説明変数として投入した。また、長子に関する情報として、誕生年ダミー、性別、就労状況を説明変数として用い、プロビットモデルで推定を行った。

本稿の分析の結果、第1に、1979年以降生まれた長子と同じ村・近隣に住む中高齢者は1979年以降生まれた長子と同じ村・近隣に住んでいない中高齢者と比べ、生活満足度が高いことが確認された。第2に、住居・性別パターンと中高齢者の生活満足度の関連性の推定結果について、高齢者については、男性親と長女ペアで最も生活満足度が高い。他方、中年者については、男性親と長男ペアで最も生活満足度が高いことがわかった。その他、婚姻状況、学歴、個人収入はいずれも、中高齢者の生活満足度に関連することが確認された。以上の結果から、例えば、賃貸住宅に近居する世帯の家賃を割引することや、補償金を支出するなど、子どもとの近居を推奨する政策が推奨される。

キーワード：住居距離、生活満足度